

字幕・手話付きがん教育 DVD 活用の効果に関する一考察

—A ろう学校の生徒を対象とした質問紙調査を通して—

○野口 武悟
(専修大学文学部)

宮田 充
(株式会社アイエスゲート)

望月 得生
(公益財団法人日本対がん協会)

KEY WORDS:がん教育, ろう学校, 字幕・手話付き教材

1. 目的

今日、学校教育においてがん教育が推進されている。がん教育とは、「健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育」¹⁾ のことである。

近年のがん教育をめぐる動向を整理すると、「がん対策基本法」に基づき策定された国の「第三期がん対策推進基本計画(2017～2022 年度)」において、がん教育について「国は、全国での実施状況を把握した上で、地域の実情に応じて、外部講師の活用体制を整備し、がん教育の充実に努める」とされた。これを受けて、文部科学省でも検討を進め、中学校、高等学校、特別支援学校中学部・高等部の新しい学習指導要領では、保健体育科におけるがん教育の扱いが明確にされた。例えば、中学校学習指導要領解説保健体育編では、「がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。」²⁾ などとされている。

文部科学省が 2020 年に公表した調査結果によると、特別支援学校におけるがん教育の実施率は、小学部 9.2%、中学部 18.6%、高等部 30.9%であった³⁾。

特別支援学校におけるがん教育の一層の推進には、児童生徒の障害に配慮した教材の作成と活用も有効と考えられる。そこで、本発表では、字幕・手話付きがん教育 DVD を作成のうえ、A ろう学校の生徒に授業内で視聴してもらい、その前後での生徒の意識や理解の変化を調査し、効果や課題を検討する。

2. 方法

まず、公益財団法人日本対がん協会が企画・制作した『よくわかる！がんの授業』(文部科学省選定がん教育アニメ映像教材 DVD) に字幕・手話を挿入した。そのうえで、この字幕・手話付きがん教育 DVD を東京都内に所在する A ろう学校の協力のもと、中学部と高等部、高等部専攻科の生徒に保健体育の授業内で視聴してもらい、視聴前後での生徒のがんに対する意識や理解の変化を質問紙で調べた。対象生徒数は、中学部が 22 人、高等部が 27 人(普通学級)、4 人(重複学級)、高等部専攻科が 7 人のあわせて 60 人であった。

3. 結果

3.1 字幕・手話付きがん教育 DVD の作成と内容

『よくわかる！がんの授業』は、文部科学省の『がん教育推進のための教材』⁴⁾で示されたがん教育で取り上げるべき 9 項目の内容を、わかりやすくクイズ形式で学べるようにしたアニメ映像教材である。しかし、音声ベースであることから聴覚障害児・者には活用することが難しい状況であった。そこで、発表者のうち宮田の所属する株式会

社アイエスゲートと社会福祉法人聴力障害者情報文化センターが協力して字幕と手話を映像に挿入した。音声の内容は全てアニメーションの下部に字幕が表示され、右側にはろう者の手話通訳者による手話が表示される。

3.2 DVD 視聴前後のがんに対する意識と理解の変化

字幕・手話付きがん教育 DVD を授業内で視聴し、その前後で次のような変化が見られた(回答数 60 人)。

(1) がんに対するイメージ(「そう思う」と回答した人数・割合):「がんは身近な病気」は視聴前 30 人(50%)だったが、視聴後 57 人(95%)と大幅に増加した。また、「がんになっても早く見つければ多くの人が治る」は視聴前 30 人(50%)が視聴後 52 人(86.7%)と増加した。一方で、「がんは怖い病気」は視聴前 52 人(86.7%)から視聴後 32 人(53.3%)と大きく減少した。

(2) がんについての知識・理解(「正しい」と回答した人数・割合):「日本人の 2 人に 1 人はがんになる」は視聴前 12 人(20%)だったが、視聴後 56 人(93.3%)と大幅に増加した。また、「がんは日本人の死因の 1 位」や「がんはだれもがなる可能性のある病気」も、視聴前後で人数・割合が大きく増えた。一方で、「がんの早期発見には検診が大切」は視聴前でも 57 人(95%)であり、正しく理解されていることがわかった。「がんは食事などの生活習慣病が関係する」「たばこは周りの人にもがんになる危険をおよぼす」も、視聴前から人数・割合が高かった。

なお、より詳しい結果については、発表用のパワーポイントで紹介する。

4. 考察

字幕・手話付きがん教育 DVD を視聴することで、がんに対するイメージが刷新されるとともに、正しい知識・理解の習得につながる可能性の高いことが確認できた。

ただし、その習得した知識・理解が持続されるかについては今後の追加調査が必要である。また、本発表は、A ろう学校 1 校の調査をもとにしたものであり、今後は他のろう学校にも協力いただき、より大きな規模での調査が必要と考えている。

なお、本発表で用いた字幕・手話付きのがん教育 DVD については、2021 年 1 月に日本対がん協会から全国のろう学校に寄贈された。ご活用のうえ、ご意見等をお寄せいただけると幸いである。

【文献】

- 1) 文部科学省「がん教育」の在り方に関する検討会(2015)『学校におけるがん教育の在り方について(報告)』, p.2.
- 2) 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説保健体育編』, p.211.
- 3) 文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課(2020)「平成 30 年度におけるがん教育の実施状況調査の結果について」, p.5.
- 4) 文部科学省(2016)『がん教育推進のための教材』, p.1.

(NOGUCHI Takenori, MIYATA Mitsuru, MOCHIZUKI Tokuo)